

世界自然遺産 5 地域会議の発足とその準備

～未来に残すべき人類の遺産共創事業推進業務委託～

2023年3月

日本の世界自然遺産は、平成 5（1993）年から現在までに 5 地域が登録され、各地域では、それぞれ地域課題を抱えつつ、自然保護のための独自の工夫が重ねられてきた。

こうした中で、2025日本国際博覧会（略称：大阪・関西万博）関係機関からの呼びかけがあり、令和 5 年 1 月 18 日、屋久島環境文化財団の呼びかけで 5 地域 22 市町村長を中心とする「世界自然遺産 5 地域会議」（以下「5 地域会議」という。）が発足した。

当業務は、5 地域会議の事務局として、組織の立ち上げ、第 1 回会合開催の準備と運営を支援したもの。

5つの世界自然遺産は

日本列島の南北にわたって分布し、それぞれ固有の顕著な普遍的価値（OUV）を有する。

5地域には7県22市町村がかかわっている。



名 称	知床	白神山地	小笠原諸島	屋久島	奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島
登録年月	2005年7月	1993年12月	2011年6月	1993年12月	2021年7月
登録面積	71,100ha (海域含む)	17,000ha	7,900ha (海域含む)	10,700ha	42,700ha
関係市町村 (各遺産地域連絡会議構成員) *印は周辺地域 太字アンダーラインの7市町村は「5地域会議」設立呼びかけ人候補	北海道 斜里町 羅臼町	青森県 西目屋村 深浦町 鱒ヶ沢町 秋田県 藤里町 八峰町(*) 能代市(*)	東京都 小笠原村	鹿児島県 屋久島町	鹿児島県 奄美市 、大和村、 宇検村、瀬戸内町、 龍郷町(*) 徳之島町、天城町、 伊仙町 沖縄県 国頭村 、大宜味村、 東村、竹富町

「世界自然遺産 5 地域会議」とは

登録地域がこれまで実施してきた独自の保全、地域づくりは、いわばSDGsの先取り事例と言え、万博のテーマにも適合。5地域の関係市町村、民間企業、活動団体、関係機関等が幅広く結集し、万博への参加を通じて連携、協力を深め、情報発信等事業に取り組む

目指す事業

- 自然遺産地域の課題や注目すべき先進的事例について情報交換し合意形成を図る
- 日本型自然保護の「共生」理念を深め、保護と振興の両立モデルを提示
- 成果は大阪・関西万博で広く国内外へ発信し、5地域の持続的発展の新たな契機へ

大阪・関西万博への参加
テーマ：「いのち輝く未来社会のデザイン」

世界自然遺産 5 地域会議

市町村長、地域の企業・活動団体等で構成

知床

- * 全国に呼び掛けて開拓跡地を原生林に戻す「知床100平方メートル運動」の実践
- * ヒグマ、エゾシカなどの生態研究
- * エコツアーガイドと連携して利用者コントロール策を導入し、植生保護、ヒグマに対するリスク管理、快適利用の三者両立を実現

白神山地

- * 世界最大級のブナ原生林を活かした環境学習や森林生態系の研究
- * 分布が拡大するニホンジカに対する、住民、関係機関の連携による監視等対策の強化

小笠原

- * ホエールウォッチングや特異な自然・文化を活かしたエコツアーの推進
- * 島を挙げての外来生物対策や固有種の保護増殖の推進

5地域の様々な 取組（例）

屋久島

- * 自然保護と暮らしの両立を目指す「環境文化」型地域づくりの普及
- * 里のエコツアー（島内集落の案内を集落住民が実施）の開発と実践
- * 水力発電の島に着目し「原生の自然を最先端技術で守る」ことをキーワードにした電気自動車の普及
- * 島内50年生スギ材による全木造の町役場庁舎新築

奄美沖繩

- * 外来種マングースの、徹底的な駆除事業の実施
- * マスツアー・エコツアーの棲み分けと推進
- * 民間主導で結成された共同企業体による、電気バスを使用した、やんばるモデルツアーの実践
- * 島唄を通じて奄美の自然・文化を情報発信する奄美「環境文化」祭、CD売上の一部を保護活動に寄付
- * 入込客数の制限、来訪者・ガイド事業者の行動制限などを定めた「西表島観光管理計画」を策定

これまで自然と共生する地域づくりの実践／住民・市民参加を事業推進の柱に

プロジェクト推進体制と会合開催

世界自然遺産 5 地域会議

構成メンバー：

5地域に関係する
全 22 市町村長及び 2 公益財団法人

今後、
民間企業、活動団体、関係機関等にも参加呼びかけ（予定）

呼びかけ人（設立後は幹事）：

5 地域代表の 7 市町村長
及び公益財団法人知床財団
公益財団法人屋久島環境文化財団

事務局：

公益財団法人屋久島環境文化財団

助言・協力：関係行政機関

顧問：学識経験者

2022年度
第 1 回会合

令和5年1月18日
屋久島で開催、
正式発足

2023年度
第 2 回会合

2024年度
第 3 回会合

2025年 4 /13～10/13
大阪・関西万博

2023年1月18日、屋久島に24団体の首長や関係者が集まり（リモート参加を含む）、5地域会議準備会を開催。この場で「世界自然遺産5地域会議」を正式発足させ、役員選任や今後の事業の方向性の確認までを行った。

世界自然遺産と 未来社会のデザイン

日本の世界自然遺産
5地域の代表者が
屋久島に集まり、
5地域会議を発足させます



第1回

世界自然遺産5地域会議

2023年1月18日(水)
13:00~18:00

屋久島環境文化村センター
映像ホール

(鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦 823-1)

※オンライン会議方式を併用

当日はYouTubeでのライブ配信も予定

13:00 ~
14:30
15:00 ~
18:00

Program

世界遺産登録30周年記念事業
知床世界遺産講演会
～元新聞記者 午米昌氏ビデオメッセージ
～知床自然センター映画「知床の冒険」上映
～「知床の冒険」制作監督との対談

世界自然遺産5地域会議（準備会）
開会・あいさつ

- 議事
- (1) 世界自然遺産5地域からの報告
～各地域の現状、課題及び自然保護と暮らしの両立事例や提案
 - (2) 世界自然遺産5地域会議の設立
 - (3) 5地域会議の今後の事業の方向、開催予定
- PAダイジェスト、参加者意見交換、まとめ
閉会

世界自然遺産5地域会議準備会出席者紹介／それぞれの遺産管理上の課題と向き合う

※は当会議設立呼びかけ人

知床 Shiretoko

高密度に生息するヒグマと住民生活、国立公園利用の折り合いをつけることが喫緊の課題。地域全体で軋轢解消へ向かう意識づくりや観光客の過度の接近を防止するための抜本的対策を模索。

馬場 隆 北海道斜里町 町長※

1951年北海道斜里町生まれ。東京で経営学・経済学、Uターンして農業を継ぐ。町議会議員を経て2011年から町長。世界の宝、知床の価値を未来へ、子どもたちに伝えたい。

渡根 隆 北海道斜里町 町長

2015年4月職制開始。2期目。「町民が幸福になるためのKプロジェクト」として、住民自らが取り組めるまちづくりを推進。2020年5月に近隣7町の協力を得て、道庁管内で初めて「知床」を導入。2021年3月、SDGサロンの開催を宣言している。

村田 良介 公益財団法人 知床財団 理事長※

1954年石川市で生まれ、愛知で育つ。学生時代は考古学を専攻し知床博物館、公民館、環境保全、教育長を経て2016年から現職。知床の山と海とをこよなく愛する。

白神山 Shirakami-Sanchi

原生ブナ林の保護は十分だが制度面で利用が制限され、地域への経済的貢献も少ない。世界遺産を核に2県7市町村を中心とする周辺部の連携を深め、地域活性化と今後の新たな活用や野生動物との共生のあり方を模索。

平田 衛 青森県八戸市 町長

1959年青森県八戸市生まれ。専攻大学で文学部史学科卒業後、郷土史研究に従事。2017年より町長に就任。「防災のある暮らし」をテーマに「子孫に託せる希望の地」づくりを目指して町政に取り組んでいる。

吉田 満 青森県深谷町 町長

1953年青森県深谷町生まれ。東京で学生生活の後、帰郷して農業を継ぐ。町議会議員を経て2006年町長に就任。日本一のダイオウと豊かな自然を後世に伝える。

森田 豊樹 青森県西目屋村 町長※

1957年青森県西目屋村生まれ。高校卒業後、県庁に就職。知床自然センターを経て農業を継ぐ。町議会議員を経て2021年から町長。白神山を中心とした歴史事業を推進し、自然環境の保護と観光による住民生活の安定を図りたい。

佐々木 文明 秋田県鷹巣町 町長※

1956年秋田県鷹巣町生まれ。高校卒業と同時に鷹巣町役場に奉職。2011年8月より鷹巣町長に就任。現在3期目の最長年となり、白神山世界遺産30周年を盛大に盛り上げたい。

堀内 満也 秋田県八峰町 町長

1975年秋田県八峰町生まれ。北青大学経営学部卒業後、帰郷して農業に従事。2022年12月21日町長に就任。2023年1月9日より町民に就任。町の人口減少を最優先課題として取り組み、「町民が安心して暮らせる町づくり」を目指す。

齋藤 滋宣 秋田県能代市 市長

1953年北海道虻田郡厚沢町出身。中央大学経済学部卒業。代議士秘書を務めた後、秋田県議会議員2期、参議院議員1期を歴任し、現職市長に就任。

小笠原諸島 Ogasawara Islands

外来種対策や固有種希少種の保護を進めるため、ペットの適正飼養などを村民の下で進めるとともに、有識者の科学的助言の下で動植物相互のかわり合いを考えた現状を評価し、随時対策を見直す順応的管理に取り組む。

渋谷 正昭 東京都小笠原村 村長※

学生時代にダイビングで小笠原に来島したことがきっかけで、1983年小笠原村役場入庁。カエル・ウツチンギス事業の立ち上げに関わるなど、小笠原におけるエコツーリズムの発展にも関わってきた。2021年9月より現職。

屋久島 Yakushima

「屋久島環境文化村構想」や「屋久島憲章」として関係者が共有してきた自然と共生する生活文化を模索することなく、山岳環境保全、エコツーリズム推進など既存の様々な取り組みを進めるなかで、遺産管理の筋道をつける。

荒木 耕治 鹿児島県屋久島町 町長※

1950年鹿児島県屋久島町生まれ。高校卒業後、鹿児島で通商。その後Uターンし1995年上屋久町議会議員選挙で初当選。上屋久町議会議員を経て、2011年11月より現職。自然と生活も心も豊か島を目指す。

小野寺 浩 (仮称) 屋久島環境文化村構想 理事長※

1973年から環境省で自然保護行政に携わる。国土庁、鹿児島県内務局に在籍し、環境計画、地域計画、国立公園環境事務所にも勤務。計画課長として新生物多様性国家戦略を策定し、2005年自然保護局長で退任。東京、鹿児島大に勤務した後、現職。

奄美大島、徳之島、 沖縄島北部及び西表島 Amami/Okinawa

4島は、野生生物の生息・生育環境と人の暮らしの場が近接。生態系管理型・環境文化型国立公園の特色を活かすつつ、島ごとに地域型3区分して遺産価値の保全を図る。とびとびに連なる4島の連携と適正な管理実現も課題。

安田 壮平 鹿児島県奄美市 市長※

1979年奄美市生まれ。東京で工学・経済学、28歳で帰郷。NPO法人市議会議員を経て2021年12月市長に就任。新しい時代に対応する未来都市、奄美の実現に尽力したい。



連絡先：(公財) 屋久島環境文化財団

〒891-4205 鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦 823-1 TEL0997-42-2900 FAX0997-49-1018

伊集院 幼 鹿児島県大和村 村長

1951年鹿児島県大和村生まれ。1981年大和村役場に入庁し職員を経て、2002年から現職。職員時代の経験を活かし「小さくとも光輝き続ける大和村」をスローガンに奄美の道徳的発展と努力の道を開いていく。

元山 公知 鹿児島県瀬戸内町 町長

1970年鹿児島県瀬戸内町生まれ。東京で就学後、Uターン。村議会議員を経て2019年から町長。素晴らしい自然・歴史文化を守り、活かしながら次世代に繋いでいきたい。

鎌田 愛人 鹿児島県瀬戸内町 町長

1963年鹿児島県瀬戸内町生まれ。鹿児島で就学後、帰郷し建設業に従事。町議会議員を経て2015年町長就任。「道徳を守り自然と調和したまち」を次世代へ引き継ぎたい。

竹田 泰典 鹿児島県薩摩町 町長

1951年鹿児島県薩摩町生まれ。鹿児島大の高校を卒業後、薩摩町役場へ入庁。役場職員、町長を経て2017年から町長に就任し現在に至る。すばらしい薩摩町の自然・歴史文化をまもり、継承し、島内外へ発信していきたい。

高岡 秀規 鹿児島県薩摩町 町長

1959年生まれ。町議会議員を経て2007年から町長。鹿児島県知事補佐、自然との共生の中で生まれた文化を後世へ引き継ぐとともに、生物多様性豊かな鹿児島の魅力を世界に発信したい。

森田 弘光 鹿児島県天城町 町長

1951年天城町生まれ。明治大学政治経済学部卒業。1976年天城町役場入庁。農政課長、総務課長などを歴任。2011年天城町町長に就任。2018年12月より現職（現在2期目）。

大久保 明 鹿児島県仙台町 町長

1954年生まれ。鹿児島県立仙台高校を経て鹿児島大学経済学部卒業。鹿児島県議会議員を経て2001年から町長に就任6期目。世界に誇るふるさと自然・文化を次世代に継承していきたい。

知花 靖 沖縄県国頭村 町長※

1959年沖縄県国頭村生まれ。東京で就学後、国頭村役場に就任。企画課長、総務課長、副村長を経て2020年村長就任。世界自然遺産を子孫に継承して引き継いでいく。

友寄 景香 沖縄県大宜味村 村長

1955年生まれ。沖縄県大宜味村出身。1980年村役場入りし、大宜味村教育長、村議会議員を経て2020年10月大宜味村長に就任。大宜味村の自然環境の保全と島民の暮らしに誇りながら各種事業を展開し、村の地域活性化を図りたい。

雲山 全伸 沖縄県東村 村長

1946年生まれ。沖縄県東村出身。1973年村役場入りし経済課長、会計管理課長などを務め、2009年退職。2019年東村町長に就任。世界に誇る豊かな自然を後世に継承するため島民と協同し、自然環境の保全と島民の暮らしに誇りながら各種事業を展開し、村の地域活性化を図りたい。

前田 正人 沖縄県竹富町 町長

1977年沖縄県石垣市生まれ。千葉で就職後、Uターンし竹富町役場職員を経て2022年から町長。自然環境への負荷を軽減する持続可能な観光の仕組みづくり等を推進し、観光産業の高度化・活性化、地域経済の発展を目指す。

知床自然センター「知床の冒険」より

撮影：写真：島田誠一氏より



屋久島環境文化村センター映像ホール大スクリーン前に「呼びかけ人」（幹事）9名、対面する固定席最前列に関係町村長6名と塩田知事ほか関係者が着席、リモート出席者は前後2台のモニター画面を通じて参加

5 地域会議準備会 会場風景

会場に来場・出席した15市町村長等と塩田鹿児島知事、中村イベント学会会長、奥田環境省自然環境局長ほか。背後はリモート参加の市町村長。

